

2027年度

大学院学生募集要項

— 修士課程 —

静岡理工科大学大学院理工学研究科

目 次

| | |
|----------------------------------|---|
| I. 2027 年度 大学院理工学研究科 学生募集要項…………… | 1 |
| 〔各入試種別詳細〕 | |
| 一般入学試験…………… | 3 |
| 外国人留学生特別選抜…………… | 6 |
| II. 3つのポリシー…………… | 8 |

| | |
|-------------------------|--|
| ○建学の精神と 基本理念 | 本学は、学校法人静岡理工科大学の建学の精神「技術者の育成をもって地域社会に貢献する」に基づき、理念を次のように定めています。 豊かな人間性を基に、「やらまいか精神と創造性」で 地域社会に貢献する技術者を育成する。 (注)「やらまいか」とは遠州地域の方言で「一緒にやってみよう」という意味で、 進取の気性に富み、チャレンジ精神が旺盛な遠州人の気質を表現している言葉です。 |
| ○大学院の目的 | 本学はこの理念に基づき、大学院の学則でその目的を次のように定めています。 「静岡理工科大学大学院（以下「本大学院」という。）は、科学・技術の高度の教育・研究を通じて、広く人類の文化の発展に寄与することを目的とする。」 |

I. 2027年度 静岡理工科大学大学院理工学研究科【修士課程】

学生募集要項

1. 募集人員（全選考合計枠）

| 専攻 | 募集定員 |
|----------|------|
| システム工学専攻 | 25人※ |
| 材料科学専攻 | 10人 |

※入学定員変更申請中

2. 試験会場（全入試種別共通）

静岡理工科大学 静岡県袋井市豊沢 2200-2

（JR東海道本線 愛野駅より、無料シャトルバス約6分）

入試本部 TEL：(0538) -45-0118

3. 2027年度生 入学試験日程

| 入試種別 | 出願期間 | 試験日 | 合否通知日 |
|--------------------------|------------------------|----------|---------|
| 一般前期入試 外国人留学生特別選抜（前期） | 2026年7月1日（水）～7月22日（水） | 8月21日（金） | 9月2日（水） |
| 一般後期入試 外国人留学生特別選抜（後期） | 2027年1月12日（火）～1月28日（木） | 2月16日（火） | 3月3日（水） |

4. 入学検定料（全入試種別共通）

本学卒業生及び在学生については免除。他大学等の出身者は30,000円。

入学検定料の納付は銀行振込みに限り、本学所定の入学検定料振込用紙で納付してください。

なお、①入学検定料振込用紙(大学提出用)を出願書類に同封してください。

5. 出願方法（全入試種別共通）

①郵送出願

出願書類を、本学所定の出願用封筒に入れ、出願期間内に郵送してください。（締切日の消印有効）

<郵送先> 静岡理工科大学 入試本部 〒437-8555 静岡県袋井郵便局私書箱35号

②窓口出願

出願書類を、本学所定の出願用封筒に入れ、出願期間内に入試本部に提出してください。

<受付時間> 平日 9:00～17:00（土・日・祝日の事務取扱はしません）

※ 注意事項：一旦受理した書類・入学検定料は、一切返還しません

6. 合否通知

本人宛の郵便により通知します。なお、合否についての問い合わせには一切応じません。

7. 入学手続

(1) 手続期間

| 入 試 種 別 | 入 学 手 続 期 間 | |
|----------------------------|--------------------------------|--------------------------|
| ・一般前期入試 ・外国人留学生特別選抜（前期） | 書 類 | 2026年12月 2日(水)～12月15日(火) |
| | 入 学 金 | |
| | 前期納付金・代理徴収金 | 2027年 3月 3日(水)～3月11日(木) |
| | (特記事項) 大学既卒者で2026年後期に入学を希望する場合 | |
| | 書 類 | 2026年 9月 3日(木)～9月 8日(火) |
| | 後期納付金・代理徴収金 | |
| ・一般後期入試 ・外国人留学生特別選抜（後期） | 書 類 | 2027年 3月 3日(水)～3月11日(木) |
| | 前期納付金・代理徴収金 | |

※合格者には入学手続書類を郵送しますので、熟読の上、入学手続期間内に必要な手続きを完了させてください。

なお、期限までに手続きを完了しない場合は、入学辞退として取り扱います。

(2) 手続方法

①入学手続書類の提出：手続期間内に郵送して下さい。(締切日の消印有効)

② 納 付 金 の 納 入：納付は銀行振込みに限ります。

8. 学生納付金（単位：円）

《一般前期・後期入試》

◇本学出身者

| 納付金の種類 | 前期 | 後期 |
|--------|---------|---------|
| 入 学 金 | 免 除 | — |
| 授 業 料 | 300,000 | 300,000 |
| 計 | 300,000 | 300,000 |

◇他大学出身者

| 納付金の種類 | 前期 | 後期 |
|--------|---------|---------|
| 入 学 金 | 150,000 | — |
| 授 業 料 | 300,000 | 300,000 |
| 計 | 450,000 | 300,000 |

《給費奨学生一般入試》

◇本学出身者

| 納付金の種類 | 前期 | 後期 |
|--------|--------|--------|
| 入 学 金 | 免 除 | — |
| 授 業 料 | 50,000 | 50,000 |
| 計 | 50,000 | 50,000 |

◇他大学出身者

| 納付金の種類 | 前期 | 後期 |
|--------|---------|--------|
| 入 学 金 | 150,000 | — |
| 授 業 料 | 50,000 | 50,000 |
| 計 | 200,000 | 50,000 |

《外国人留学生特別選抜（前期・後期）》

| 納付金の種類 | 前期 | 後期 |
|--------|---------|---------|
| 入 学 金 | 150,000 | — |
| 授 業 料 | 300,000 | 300,000 |
| 計 | 450,000 | 300,000 |

9. 代理徴収金（参考／2026年度入学者）

上記納付金のほか、代理徴収金として後援会費 15,750 円（1年間分）、学生教育研究災害保険料 2,430 円（2年間分）、応用ソフトウェア代 3,570 円（1年間分、変動あり）、合計 21,750 円を徴収します。

【 一 般 入 学 試 験 】

1. 出願資格

下記の要件のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者および 2027 年 3 月卒業見込みの者
- (2) 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者
- (3) 文部科学大臣の指定した者
- (4) その他、本大学院において、大学を卒業した者と同等の学力があると認められた者

2. 給費奨学生特典

一般前期を受験した者の内、成績最上位合格者で給費奨学生としてふさわしい者を授業料 50 万円給費奨学生に採用する。

授業料 50 万円給費奨学生 → 年間 50 万円を入学後最大 2 年間給付(半期毎に 25 万円)

※授業料 50 万円奨学生枠を 1 名とします。

※1 年次末での修得単位が 20 単位に満たない場合は資格取消

2. 出願手続（一般前期・後期入試共通）

出願者が提出する書類

| 書 類 等 の 名 称 | 適 要 |
|----------------------|---|
| ①入学志願票 | 本学所定用紙。写真は最近 3 ヶ月以内に撮影した正面上半身、脱帽無背景のものを貼付すること。 (4cm×3cm 裏面に氏名・生年月日を明記) ※志望専攻を明記すること。(システム工学専攻志願者は志願コースも明記) ※志望教員と事前面談のうえ、承認欄に押印をもらうこと。 |
| ②学修希望調査書 | 本学所定用紙 |
| ③卒業（見込み）証明書 | 出身大学長の作成したもの |
| ④成績証明書 | 出身大学長の作成したもの |
| ⑤TOEIC L&R のスコア | 公式認定証またはスコアシートの写しを提出のこと * 大学在籍時に受験した TOEIC L&R に限る。 |
| ⑥入学検定料振込用紙（他大学出身者のみ） | 本学所定用紙。振込み手続き後、①(大学提出用)を提出 |

該当者のみ提出する書類 ※上記の書類のほか、次に該当する者はそれぞれ当該書類を併せて提出してください。

<官公庁、民間企業などに在職中の者>

| 書 類 等 の 名 称 | 適 要 |
|-------------|---|
| ⑦受 験 承 諾 書 | 官公庁、民間企業などに在職中の者のみ、所属長の受験承諾書を添付すること。(様式は任意) |

<外国人>

| 書 類 等 の 名 称 | 適 要 |
|-------------|----------------------|
| ⑧在留カードの写し | 両面（表面・裏面）の写しを添付すること。 |

3. 選考方法（一般前期・後期入試共通）

入学者の選考は、学力試験・面接試験・提出書類を総合して行います。

(1) 試験時間割

| 内 容 | 時 間 |
|--------|---------------------|
| 受験上の注意 | 9:15 ~ 9:30 |
| 専 門 | 9:30 ~ 12:30 (180分) |
| 面 接 | 13:30 ~ |

※受験者の人数等により、当日の時間割を変更することがあります。正式には出願後に送付する受験票にてお知らせします。

(2) 試験科目および配点

次の科目について大学学部卒業程度で出題します。

| 区分 | 学力試験科目 | | | | | | | 配点 | |
|--|-----------------------------------|--------------------------------|---------|-------------------------|--------------------------------|--------------------------------|----------|------|-------------|
| 必須 | 全員 | 英 語 TOEIC L&R 試験のスコアを利用します。※注1 | | | | | | 100点 | |
| 専攻科目 | ※関数電卓持込可（ポケコンを使用する場合は関数電卓機能のみ使用可） | | | | | | | | |
| | 機 械 工 学 | 必須 (2科目) | 1 | 数学(微分積分、線形代数) | 選択 (1科目) | 3 | 熱力学・流体力学 | | 1科目 100点 |
| | | | 2 | 力学 | | 4 | 制御・計測 | | |
| | | | | | | 5 | 材料・加工 | | |
| | 電 気 電 子 工 学 | 必須 (1科目) | 6 | 電気回路学 | 選択 (2科目) | 8 | 電磁気学 | | |
| | | | | もしくは | | 9 | 電気回路学 | | |
| 7 | | | 電子回路学 | 10 | | 電子回路学 | | | |
| | | | | 11 | | 半導体工学 | | | |
| | | | | 12 | | 線形代数 | | | |
| | | 13 | 微分積分 | | ※必須科目で選択した科目は選択できない。 | | | | |
| 建 築 学 | 選択 (1科目) | 14 | 建築意匠 | 情 報 学 | 選択 (1科目) | 17 | 情報数学 | | |
| | | 15 | 建築構造 | | | (代数系,論理数学,確率・統計) | | | |
| | | 16 | 建築環境・設備 | | | 18 | 線形代数 | | |
| | | | | 19 | 微分積分 | | | | |
| 都 市 デ ザ イ ン (土木工学) | 選択 (2科目) | 20 | 水理学 | 海 洋 DX ※新設 | 必須/ 選択 (1科目 ~ 3科目) | 指導教員(予定者)の 所属に従い専門科目 を指定 | | | |
| | | 21 | 構造力学 | | | | | | |
| | | 22 | 土質力学 | | | | | | |
| | | 23 | 建設材料学 | | | | | | |
| | | 24 | 環境工学 | | | | | | |
| 25 | 土木計画 | | | | | | | | |
| 材 料 科 学 | 選択 (3科目) | 26 | 生命科学 | 30 | 分析化学 | | | | |
| | | 27 | 物理化学 | 31 | 有機化学 | | | | |
| | | 28 | 無機化学 | 32 | 食品科学 | | | | |
| | | 29 | 微生物学 | | | | | | |
| 面 接 | 個人面接 (1人20分程度) | | | | | | | 100点 | |

※注 1. TOEIC L&R スコア(X 点)を下記の式で換算した点数を英語の得点 (Y 点) とします。

$$Y = \{(X - 250) / 500\} \times 100$$

750 点以上は 100 点、250 点以下は 0 点とし、小数点以下は四捨五入します。

※出願時に TOEIC L&R の公式認定証またはスコアシートの写しを提出してください。

ただし、大学在籍時に受験した TOEIC L&R に限ります。

※専門科目は出願時に選択します。

(志願票の選択科目欄に科目番号と科目名を記入してください。なお、出願後の選択科目変更は認めません。)

システム工学専攻／機械工学コース：3 科目、電気電子工学コース：3 科目、建築学コース：1 科目、

都市デザインコース：2 科目、情報学コース：1 科目、海洋 DX コース：1 科目～3 科目

材料科学専攻／3 科目

※出願期間・試験日・合否通知日、試験会場、入学検定料、出願方法については P.1 をご参照ください。

【 外国人留学生特別選抜 】

1. 出願資格

日本の国籍を有しない者で、以下の要件のいずれかに該当する者。

ただし、いずれの場合も日本の大学（学部）を卒業または卒業見込みの者を除く。

- (1) 外国において学校教育における 16 年の課程を修了している者で、さらに本学研究生として在学し、指導教員の推薦を得られる者。なお、研究生として在学中に指導教員の指示により、学部の関連する科目（1～2 科目を指定）の受講を課す場合がある。
- (2) 外国において学校教育における 16 年の課程を修了している者で、さらに本学以外の日本の大学に研究生として在学し、指導教員の推薦を得られる者。
- (3) その他、本研究科において、上記（1）または（2）に準ずると認めた者（この場合は、事前に申し出ること）

2. 出願手続（前期・後期入試共通）

出願者が提出する書類

| 書類等 | 注意事項 |
|------------------------|--|
| 入学志願票 | 本学所定の用紙。 |
| 志望理由書 | 本研究科を志望する理由「1,000 字以内」にまとめたもの。 (A4 版、日本語、様式任意) |
| 推薦書 | 指導教員が作成したもの。(様式任意) |
| 最終出身学校成績証明書 | 出身大学（学校）が発行し、厳封したもの。 |
| 最終出身学校卒業（修了）証明書 | ※コピー不可。日本語以外の書類には日本語訳を添付してください。 |
| 在留カードの写し | 両面（表面・裏面）の写しを添付すること。 |
| 入学検定料振込用紙（本学所定用紙） | 検定料 30,000 円を期日までに銀行等の金融機関から振込むこと。振込用紙は一連綴りになっているので、必要事項を記入し、切り離さずにそのまま銀行に渡し、取扱銀行の受付印を所定の箇所に受けること。 振込み手続き後、①(大学提出用)を提出。 |
| 日本語能力試験または日本留学生試験成績通知書 | 取得者のみコピーを提出。 |

3. 出願上の注意

- (1) 出願書類提出前に、出願資格などについて必ず本学に事前照会すること。
- (2) 出願書類に不足または不備がある場合および期限を過ぎたものは受理できない。
- (3) 提出された個人情報については、入試選考、合格通知および入学手続関係書類の送付目的に利用し、それ以外の目的には使用しない。
- (4) 出願書類の記入は、記入要領などを熟読のうえ、志願者本人が正確に黒インク（ボールペン可）で記入すること。
- (5) 記載事項が事実と異なる場合や、その他不正がある場合は、受験や入学を取り消すこととする。
- (6) 一旦受理した書類・入学検定料はいかなる事由においても返還できない。
- (7) 入試に合格しても、日本国の出入国管理法および難民認定法による留学生として在留資格が得られなければ入学することはできない。

4. 選考方法（前期・後期入試共通）

(1) 試験時間割

| 内 容 | 時 間 |
|---------|-------------------------|
| 受験上の注意 | 8 : 45 ~ 8 : 55 |
| 小論文 | 9 : 00 ~ 10 : 30 (90分) |
| 日本語能力試験 | 11 : 00 ~ 12 : 00 (60分) |
| 面 接 | 13 : 30 ~ |

※受験者の人数等により、当日の時間割を変更することがあります。正式には出願後に送付する受験票にてお知らせします。

(2) 試験科目

| 試験科目 | 内容 |
|---------|---------------|
| 小論文 | 日本語で記述 |
| 面接 | 個人面接（口頭試問を含む） |
| 日本語能力試験 | N2 レベル相当 ※ |

※下記に該当する者は、日本語能力試験の試験科目を**免除**する。

日本語能力試験N2以上に合格した者、または、日本留学試験の日本語科目200点以上を取得している者（ただし、2026年6月、2026年11月、2025年6月、2025年11月、実施の日本留学試験のうち、いずれかを受験していること）。
該当者は成績通知書を提出。

※出願期間・試験日・合否通知日、試験会場、入学検定料、出願方法についてはP.1をご参照ください。

Ⅱ. 3つのポリシー

| | |
|---------|--|
| 3つのポリシー | <p>使命・目的を達成するための具体的な方策として、本大学院における3つのポリシーを次のように定めています。</p> <p><u>アドミッションポリシー（AP）</u>（入学者受入れの方針）</p> <p>DPに掲げた人物を養成するため、国内外の大学卒業予定者及び大学卒業に準ずる学力をもつ者（社会人も含む）を対象に、以下のアドミッションポリシーを定めています。</p> <p>《理工学研究科》</p> <p>（1） システム工学専攻</p> <p>知識・理解（AP1）：システム工学分野において、技術および技能をものづくりやことづくりへ活用することを志向した基礎、専門知識、および実験遂行能力を持ち、高度な専門分野を学ぶために必要な学力を有する者。</p> <ul style="list-style-type: none">・機械工学コースは、機械・製品の開発設計・加工・保全の先端技術を学ぶために必要な材料力学、機械力学、流体力学、熱力学、制御、機械加工学の学力を有する者。・電気電子工学コースは、大学教養レベルの数学と電気回路・電子回路の基礎、およびハードウェアとソフトウェアの両面から回路やシステムの設計を行う専門的な学力を有する者。・建築学コースは、実務設計能力や設計監理・施工管理の高い資質を得るために必要な、都市・建築計画、建築環境・設備、耐震構造、材料施工の専門学力を有する者。・都市デザインコースは、安全・安心な社会の創生と発展のため、建設技術に加え環境や防災・減災などの幅広い視野と応用力を得るために必要な、水理、地盤、材料、構造、都市計画、環境の専門学力を有する者。・情報学コースは、高度なソフトウェア技術と情報システム応用技術を学ぶために必要な情報科学とICT（情報コミュニケーション技術）の学力を有する者。・海洋DXコース（2027年度新設）は、マリンインフォマティクスを学ぶために必要な海洋科学や情報科学の学力を有する者。 <p>思考・判断（AP2）：論理的かつ創造的な思考力・多面的な考察力・適切な情報処理力等を有し、自らの行動を判断できる者。</p> <p>関心・意欲（AP3）：システム工学の分野における進展と社会との関わりに関心を持ち、自主的、主体的、実践的に行動して新たな道を開拓する意欲と熱意を有する者。また、広く世界に関心を持つ者。</p> <p>態度（AP4）：社会人としての倫理観や責任感を有し、計画的、継続的、自律的な学習で身に付けた学問を社会に貢献しようと行動する者。</p> <p>技能・表現（AP5）：科学・技術の基礎力を有し、それらを総合的に活用して、自らの思考、判断のプロセスを表現することができる者。</p> <p>（2） 材料科学専攻</p> <p>知識・理解（AP1）：材料科学分野において、技術および技能をものづくりやことづくりへ活用することを志向した基礎、専門知識、および実験遂行能力を持ち、高度な専門分野を学ぶために必要な学力を有する者。及び、数学・物理学・化学・生物学の素養をもとに、環境科学・材料科学・生命科学・食品科学等のいずれかの分野において、先端的な学術内容を修得する基礎となる学力を有する者。</p> <p>思考・判断（AP2）：論理的かつ創造的な思考力・多面的な考察力・適切な情報処理力等を有し、自らの行動を判断できる者。</p> <p>関心・意欲（AP3）：材料科学の分野における進展と社会との関わりに関心を持ち、自主的、主体的、実践的に行動して新たな道を開拓する意欲と熱意を有する者。</p> <p>態度（AP4）：社会人としての倫理観や責任感を有し、計画的、継続的、自律的な学習で身に付けた学問を社会に貢献しようと行動する者。</p> <p>技能・表現（AP5）：科学・技術の基礎力を有し、それらを総合的に活用して、自らの思考、判断のプロセスを表現することができる者。</p> |
|---------|--|

カリキュラムポリシー（CP）（教育課程編成、実施の方針）

本学大学院は、広い視野と精深な学識を持ち、高度な専門性を要する世界で新たな道の開拓者たる活躍をする高度専門技術者または研究者を養成するために、カリキュラムポリシーを以下のように定めています。

本学大学院のカリキュラムは、研究室ごとに行われる修士論文研究と、そのための演習を第一に捉え、併せて国際性や技術と自然の調和などについて考える素養を培う共通科目、自らの専門及びそれに隣接する学問の最先端を修得する専門科目から構成されています。これらの共通・専門科目とチャレンジ精神を養う教育を互いに連携させ、個々の学生の適性・能力に応じてきめ細かく教育することを本学大学院の教育方針としています。

《理工学研究科全体》

本学大学院の教育方針に沿った教育を実施するため、理工学研究科には「システム工学専攻」と「材料科学専攻」の2専攻を設けている。更にシステム工学専攻には、「機械工学コース」、「電気電子工学コース」、「建築学コース」、「都市デザインコース」「情報学コース」「海洋DXコース」の6コースを設け以下の様な教育を行っている。

1. 研究室当たりの大学院学生数を原則1学年3人以下として、目の行き届いた修士論文研究指導を行う。
2. 修士論文研究(理工学研究1・2・3・4)および演習(理工学演習1・2・3・4)は必修とし、2年間分の履修を求める。
3. 修士論文研究では、企業との共同研究、学会発表、展示会発表、論文執筆、特許出願、海外留学などを通じて、研究発表力、高度コミュニケーション力、合理的思考力・認知力、開発力、創造力、柔軟な対応力、企画実行力等を涵養する。
4. 多角的視野による高度な研究力を養成するべく、学生毎に2名の副指導教員をおく。
5. 修士論文研究に中間報告会を設ける。
6. 修士論文研究は合否判定に併せ、ディプロマポリシーに応じた評価を行う。
7. 以上の様な過程を通じて、主体的な学びの姿勢を身につけ、「知識・理解」、「思考・判断」、「関心・意欲」、「態度」、「技能・表現」を養い、知識やスキルを統合して問題解決につなげていく能力や姿勢を育成する。

(1) システム工学専攻

- ・ 機械工学コースでは、各種機械・製品の開発設計のための、先端的な振動・強度・流体・熱エネルギー・制御技術及び素材・加工プロセス技術を理解し、技術者・研究者として実践的な製品・技術開発ができる教育・研究指導を行うカリキュラムを編成する。
- ・ 電気電子工学コースでは、電気電子工学分野における先端的な材料、デバイスおよびシステムの設計、製作、評価、制御、運用に関する技術について、その学術体系を支える数学や物理学の修得を含めた教育を行い、技術者・研究者として実践的な技術開発ができる教育・研究指導を行うカリキュラムを編成する。
- ・ 建築学コースでは、実務設計能力や設計監理・施工管理の高い資質を得るために、先端的な建築環境・設備、都市・建築計画、耐震構造、材料施工の実践的な教育・研究指導を行うカリキュラムを編成する。
- ・ 都市デザインコースでは、技術者あるいは研究者として第一線で活躍できる人材の養成のため、土木工学分野に必要な水理、地盤、材料、構造、都市計画、環境に関する実践的な教育・研究指導を行うカリキュラムを編成する。
- ・ 情報学コースでは、日々進歩を続ける情報技術に対し、理論・技術の探求のみならず、現代社会及び未来社会への影響や倫理的な視点といった総合力を有し、十分な専門的知識と技術を備えた高度専門職業人の育成が可能となるカリキュラムを編成する。
- ・ 海洋DXコースでは、DXを活用して海洋に関する課題を解決できる高い資質を得るために、データサイエンス、人工知能、マリンインフォマティクスおよび事業構想の実践的な教育・研究指導を行うカリキュラムを編成する。

(2) 材料科学専攻

材料科学専攻では、環境科学・材料科学・生命科学・食品科学等のいずれかの分野において、物理、化学、生物学、食品化学的な基盤に立ち、高度な専門知識や実験技術を習得し、科学者・技術者として要求される合成技術、開発技術、分析技術を有し、洞察力と応用力を養う教育・研究指導を行うカリキュラムを編成する。

ディプロマポリシー（DP）（学位授与の方針）

広い視野に立った精深な学識を持ち、高度な専門性を要する世界で新たな道の開拓者たる活躍をする高度専門技術者または研究者の養成を目指し、以下のディプロマポリシーを定めています。

《理工学研究科》

（１） システム工学専攻

知識・理解（DP1）：システム工学分野における高度な専門知識と技術に加え、その基礎および隣接領域の知識を修得し、技術者・研究者としてものづくり・ことづくり社会に貢献できる。

・機械工学コースでは、各種機械・製品の開発設計のための、先端的な振動・強度・流体・熱エネルギー・制御技術及び素材・加工プロセス技術を修得し、技術者・研究者として実践的な製品・技術開発ができる。

・電気電子工学コースでは、電気電子工学分野における先端的な材料、デバイスおよびシステムの設計、製作、評価、制御、運用に関する技術について、その学術体系を支える数学や物理学を含めて修得し、隣接専門分野の一部を踏まえて技術者・研究者として実践的な技術開発ができる。

・建築学コースでは、先端的な都市・建築計画、建築環境・設備、耐震構造、材料施工の知識や技術を習得し、設計者、技術者、研究者として実践的な設計、設計監理・施工管理や技術開発ができる。

・都市デザインコースでは、都市創生、環境や防災における先端的な水理、地盤、材料、構造、都市計画、環境に関する知識を習得し、応用能力を身に付け、安全・安心な社会形成のために貢献することができる。

・情報学コースでは、人工知能や情報ネットワークに対応する高度なソフトウェア技術および心理・経営・社会分野における情報システム応用技術を修得し、技術者・研究者として実践的な技術開発ができる。

・海洋DXコースでは、海洋と情報に関する先端知識と技術を習得し、実践的な技術者・研究者として、海洋に関する複雑な課題に対して、海洋DXを活用した技術開発ができる。

思考・判断（DP2）：地域社会や産業界におけるシステム工学の寄与する課題を俯瞰的に認識し、その専門性を活かして課題を解決でき、多様化・複雑化する世界をより善くする手段を創造できる。

関心・意欲（DP3）：システム工学の更なる発展を目指し、それが地域社会や産業界でのものづくり・ことづくりに貢献する道を主体的に計画し立案し実行できる。さらに世界的な視野での産業界の動向に対応できる、グローバル技術者になれる。

態度（DP4）：システム工学における技術者・研究者に求められる倫理・規範を理解して行動でき適切に自らのストレスをコントロールしつつ、チーム内の状況を踏まえて柔軟で適切な対応ができる。

技能・表現（DP5）：科学・技術の発展や多様化する社会において、チーム内外の意見を丁寧に汲み取ることができ、合理的思考力・認知力をもとに、自らの意見をわかりやすく伝え、討議できる。

（２） 材料科学専攻

知識・理解（DP1）：材料科学分野における高度な専門知識と技術に加えその基礎および隣接領域の知識を修得し、技術者・研究者としてものづくり・ことづくり社会に貢献できる。すなわち、無機・有機・バイオ・フードマテリアル等における機能性分析技術及び新素材開発技術について、先端的な学術内容を修得し、技術者・研究者として研究開発や実践的な技術開発をすることができる。

思考・判断（DP2）：地域社会や産業界における材料科学の寄与する課題を俯瞰的に認識し、その専門性を活かして課題を解決でき、多様化・複雑化する世界をより善くする手段を創造できる。

関心・意欲（DP3）：材料科学の更なる発展を目指し、それが地域社会や産業界でのものづくり・ことづくりに貢献する道を主体的に計画し立案し実行できる。

態度（DP4）：材料科学の専門分野において、未知の課題を解決しようとする意欲を持ち、また、自己管理能力を身につけ、技術者・研究者に求められる倫理・規範を理解して行動でき、チーム内の状況を踏まえて柔軟で適切な対応ができる。

技能・表現（DP5）：科学・技術の発展や多様化する社会において、チーム内外の意見を丁寧に汲み取ることができ、合理的思考力・認知力をもとに、自らの意見をわかりやすく伝え、討議できる。

| | |
|----------|---|
| 受験 番号 | ※ |
|----------|---|

※欄は記入しないでください

2027年度 静岡理科大学大学院理工学研究科
一般 _____ 入試 入学志願票

| | |
|-------------|---|
| 志望専攻 コース | 専攻 コース <small>※システム工学専攻はコース名を記入すること</small> |
| フリガナ | |
| 氏 名 | 男・女 |
| 志 望 教 員 | |
| 第一志望 | 先生 |
| 第二志望 | 先生 |
| 第三志望 | 先生 |
| 承認印 | |
| 生年月日 | 年 月 日生 |

| |
|----------------------|
| 写 真 |
| 縦 4cm×横 3cm |
| 最近 3 ヶ月以内に 撮影したもの |

| | | |
|---------------|------------------------|---|
| 試 験 科 目 の 選 択 | | |
| 専攻科目番号 | 科 目 名 | 募集要項P4の各専攻で定められた専門科目より科目を選択し、科目番号と科目名を記入すること。なお、出願後の選択科目の変更は認めない。 |
| | | |
| | | |
| 出願資格 | 国立 公立 私立 (西暦) | 大学 学部 学科 課程 |
| | 年 月 卒業・卒業見込 | |
| 本人 | 連絡先 〒 | 電話 () - () - () |
| 保証人 | 氏 名 | 続柄 |
| | 現住所 〒 | |
| | 電話 () - () - () | |

裏面も記入のこと

| 履 歴 | | |
|--------|-----|----------------------|
| 学 歴 | 年 月 | 所在県 高等学校 (県) 卒 業 |
| | 年 月 | 入 学 |
| | 年 月 | 卒 業 |
| | 年 月 | 入 学 |
| | 年 月 | 卒 業 |
| | 年 月 | |
| | 年 月 | |
| | 年 月 | |
| | 年 月 | |
| | 年 月 | |
| | 年 月 | |
| | 年 月 | |
| 職 歴 | 年 月 | |
| | 年 月 | |
| | 年 月 | |
| | 年 月 | |
| | 年 月 | |
| | 年 月 | |
| | 年 月 | |

- 〔注〕 ① 学歴は高等学校卒業から記入すること。卒業見込の者は卒業見込まで記入すること。ただし、外国人出願者は小学校から記入し、大学等で研究生として在学歴がある場合は、その期間も記入すること。
- ② 履歴中に虚偽の事項を記載し、又は当然記載すべき事項を記入しなかったことが判明した場合、入学許可を取り消すことがある。

| | |
|----------|---|
| 受験 番号 | * |
|----------|---|

*は記入しないでください

2027年度 静岡理工科大学大学院理工学研究科 学修希望調査書

下記の項目について記入しなさい。

- 1 大学院への進学を志望する動機(200字程度)

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

- 2 入学後、専攻において特に学修したいと思う分野について(400字程度)

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

- 3 卒業研究の概要又はその計画の概要(200字程度)

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

年 月 日

氏 名 _____ 印

| | |
|----------|---|
| 受験 番号 | ※ |
|----------|---|

2027 年度静岡理工科大学大学院 外国人留学生特別選抜
入 学 志 願 票

※欄は記入しないでください

| | | | | | | |
|----------------------|--|----------------|-------------|----------|--|----|
| 志望専攻 | | | | 専攻 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>写真貼付欄</p> <p>3 ヶ月以内の上半身 正面・脱帽のこと。</p> <p>(縦 4cm×横 3cm)</p> <p>※写真裏面に氏名を</p> </div> | |
| 志望教員 | | | | 先生 | | |
| 氏名 | 姓 (Family Name) | 名 (First Name) | 性別 | | | |
| フリガナ | | | 男 ・ 女 | | | |
| 漢字 | | | | | | |
| アルファベット (パスポート表記) | | | | | | |
| 生年月日 | 年 | 月 | 日 | 国籍 | | |
| 現住所 | 〒 | | | 電話 | | |
| | | | | 携帯 電話 | | |
| 学 歴 | 小学校から最終学校まで年代順に記入してください。 | | | | | |
| | 学校名 | | | 卒業年月 | | |
| | | | | 年 | 月 | 卒業 |
| | | | | 年 | 月 | 卒業 |
| | | | | 年 | 月 | 卒業 |
| | | | | 年 | 月 | 卒業 |
| | | | | 年 | 月 | 卒業 |
| | | | | 年 | 月 | 卒業 |
| 在留資格 | 1.留学 2.その他 () | | | / | | |

記入上の注意

- ・黒インク（ボールペン可）で記入してください。

【静岡理工科大学 入試本部】

〒437-8555 静岡県袋井市豊沢 2200-2

TEL0538-45-0118

Mail : nyushi@sist.ac.jp

※入試制度や研究室見学等のご相談は、

上記までご連絡ください。